



農工通信



第73号



工学部総合研究棟(1号館増築部分)

老朽化の進んだ既存1号館(S35年建築)の北側に学際的研究活動の拠点として新たに建てられた。スロープ状の屋上庭園と、半屋外・屋内の交流スペースがあり多様な交流空間を創出するとともに、実験研究ゾーン、教官室・学生居室ゾーン、共用ゾーンの3つのゾーンに分けて施設利用の効率化を図っている。なお、既存1号館も耐震補強されて増築部分とともに研究拠点となっている。

も く じ

○ あいさつ	○ 第41回通常総会開催さる	12
同窓会の皆様に	○ 新たに迎えた正会員	15
○ 元同窓会長 久保田富一郎氏を偲んで	○ 部会・支部・クラス会だより	22
○ 平成15年度卒業式・修了式祝辞	○ “東京集会”開催ご案内	26
○ 平成16年度入学式祝辞	○ 農工大全OB基会のお知らせ	26
○ 卒業式を迎えて	○ 掲示板	
○ ピカピカの1年生	新同窓会室、会議室の紹介	27
○ 学園だより	後援会創立25周年記念行事の実施	27
農工大の研究力	今春本学を退官された教官	28
○ 解説	慶弔	28
鳥インフルエンザについて	○ 事務局だより	28
塩に強い植物をつくる	○ 編集後記	28

あ い さ つ

—同窓会の皆様に—

東京農工大学長 宮 田 清 藏

本年4月1日から、文部科学省の附属機関であった本学は、国立大学法人東京農工大学が設置する東京農工大学として船出をいたしました。

同窓会の皆様が在籍していた頃の国立大学は、文部科学省の援助、助言の下に大学を運営しておりましたが、法人化後は、大学の責任のもとに創意工夫を凝らした大学造りを進めていく必要があります。

法人化は、運営の効率化の向上といったいわば行政改革の視点を超えて、教育研究の高度化、個性豊かな大学づくりなど、従来からの大学改革の流れを促進し、活力に富み、国際競争力のある大学づくりの一環として行われたものであります。従いまして、法人化は、大学改革を推進するための一環として行われたものであると考えています。様々な面で規制が大幅に緩和され、大学の裁量が拡大するといった法人化のメリットを大学改革のために最大限に活用するという積極的な発想に立って、今後の国立大学法人東京農工大学の舵を取っていく所存であります。しかしながら、大学としての基本的な使命である教育研究、社会貢献の役割は何ら変わることはありません。

これからは、21世紀の我が国の「知」の基盤を支えるため、本学に期待される使命や機能を一層明確化し、その確実な実現に教職員が一丸となって取り組んでいくことが従来以上に強く求められます。

同時に、国民や社会の意見が本学の運営に適切に反映されること、教育研究の実績が社会に対し積極的に情報提供がなされること、さらに、これらを基礎に本学の諸活動が適切に評価されることなど、国民や社会に認められる法人にしていく必要があります。

本学は、大学本来の機能である教育研究の高度化、活性化を図ることはもちろんのこと、最近の

動きとして、民間等との研究連携の積極的な推進、研究情報の積極的公開、民間企業等への技術移転の推進など、社会との連携や協力を積極的に実施し、その成果を発信している大学として高い評価を受けているところです。

例えば、平成16年2月16日の有力全国紙に掲載されました、全国の国公立大学工学系学部の「研究力」調査では、成果発信力第1位、産学連携力第5位、研究力の総合順位では第5位と、総合大学伝統校と肩を並べる実力が認められております。特に大型の共同研究の件数は、全国の国公立大学のなかでもトップを誇っております。また、「知的財産立国」を目指す政府の知的財産本部整備事業も採択され、(株)農工大TLOでは、既に本学の研究成果の技術移転が成功しております。

国際貢献においても、平成14年度にアフガニスタンの復興を支援するために「カプール大学復興支援室」を学内に設置し、留学生や研究者の受入れを行うなど教育研究の国際交流を積極的に進めています。さらに、今年度から、数年来の懸案事項であった大学院の再編が認められ、大学院を基軸とした大学としての仲間入りを果たし、法人化と併せ新たな出発をいたしました。

法人化と大学院の再編というこの変革を契機に、本学の基本理念である「使命志向型教育研究—美しい地球持続のための—(MORE SENSE)」の実現に向け、科学技術系大学院基軸大学として高度化を図り、個性豊かなオンリーワン大学を創り上げて行きたいと思っております。そのためにも、同窓会の皆様方の温かいご支援は本学の教職員及び学生にとって、何よりも励みになるものでございます。今後とも、本学の発展のために皆様の一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。法人化に当たってのご挨拶といたします。

21世紀の課題に応える使命志向型教育研究—美しい地球持続のための—

MORE

Mission Oriented Research and Education giving

SENSE

Synergy in Endeavors
toward a Sustainable Earth



元同窓会長 久保田富一郎氏を偲んで

同窓会前会長 西尾 邑次 (農S17)

敬愛する元東京農工大学同窓会会長久保田富一郎先輩が平成15年11月30日他界されてから早や半年を経過しておりますが久保田先輩と私との交流関係を述べてみたいと思います。

久保田さんは、平成5年から11年まで実に三期六年間に亘り同窓会の会長をお努めいただき同窓会の運営に格段の御尽力をいただきました。中でも五十周年記念会館の建設、国際交流援助資金への寄付につきましては特筆すべき功績であります。そして先般完成いたしました同窓会室も、その基礎を造っていただいたものであることを忘れてはならないと思います。

さて久保田さんと私との出会いは、国民体育大会であります。国体は毎年開催され群馬では昭和58年に開催されました。次は奈良県、その次は私の鳥取県でありました。国体の開催県は大会の運営をいかに上手にやるか競技では立派な成績を挙げ総合優勝を勝ちとるかとうことで開催年の数年前から準備を進めておりました。当時久保田会長は群馬県の体育協会の副会長(スキー連盟の会長でもあった)であり準備期間群馬県議会の議長でもあり、群馬国体の成功のため随分苦勞を重ねられたと思います。

私は、群馬国体には、鳥取県知事に就任してから二年目の年でありましたが県体育協会会長でもあり参加すると共に大会の運営について勉強いたしました。その際久保田会長に種々御高配いただきました。そして忘れることのできないのは翌年開催された奈良国体の時であります。鳥取国体の前年でもあり出来るだけの知恵を吸収しようと多くの競技会場を視察いたしました。ある日久保田さんから「今晚鳥取の大会役員を集めてくれ。群馬国体の経験を伝授するから」とのこと、早速居酒屋に鳥取県の幹部を集めました。久保田さんは、国体は何としても優勝しなければならないと、そのため群馬県が実施したことなど二時間に亘って講義され、久保田さんの弁に耳を傾け大きな収穫でありました。

お陰で全国最小の人口でありながら総合優勝を果たただけでなく、県外の役員選手の皆様からも親切で素晴らしい国体でしたと云う言葉を残しそれぞれの県に帰省されました。

その後間もなくの頃久保田さんから優勝の祝賀会を前橋で行うからとの連絡を受け、東京出張の際に前橋まで参りました。そこには農工大の同窓生が多く集まっており楽しい祝いの酒を酌み交わし感激に浸った次第です。

又鳥取県にフラワーパークを建設する企画が起こり先進県を視察することになり群馬県の赤城山麓にある群馬県フラワーパークもその一つでした。わざわざ案内いただき、そして園長が同窓であった事も幸いし非常に参考になる教示を受けたことがあります。今鳥取のフラワーパーク(花回廊)は自然との調和のとれた園として評価が高く、昨年10月24日ジャパンフラワーパークフェスティバルが花回廊で開催されその前日花回廊を訪れた際、現農工大同窓会々長畑中様(日本花普及センター理事長)にお会いしたのも久保田会長の霊の力によるものではなかったかと推測いたします。

久保田さんとは、国民体育大会が開催される度にお会いいたしました。開会式の入場行進の時間待ちのとき、私は群馬県の団に行き久保田さんと話をするのを恒例としていました。いつもニコニコとして応待して下さったことを思い起こしております。

久保田さんは、鳥取支部総会に来賓として御来鳥いただいた事が二回あります。鳥取の同窓会にも馴染みの会長でもありました。東京農工大では私の一期先輩で林学科と農学科の違いもあり学生時代にはお互い知らない間柄でありました。社会人になってからの関係は私から見ると久保田さんが大先輩の大家物に見えました。お会いする度に次期会長にと要請されながら断り続けていましたが、知事四期で退任するを期に、器でもない私が久保田さんの後を継ぐことになりました。会長就任同窓会役員の皆様の御支援をいただきながら二期目を終え無事退任することが出来た次第です。

久保田先輩には大変お世話になりました。在りし日を偲び心からご冥福をお祈りいたします。

平成15年度東京農工大学卒業式・修了式祝辞

同窓会会長 畑 中 孝 晴 (農S31)

皆さん、卒業・修了おめでとうございます。

同窓会に正式に入会され、心から歓迎申し上げます。ご両親或いはご関係の方々もお喜びのことと思います。また、卒にはまりたくない、少々生意気だだと思われ皆さんを一人前に育てあげられた教職員の先生方にも、敬意を表する次第でございます。東京農工大学は、小さな2学部大学ですが、我々技術系で仕事をしている者から見ますと大変存在感の大きな大学です。その存在感を保持していけるような大学であってほしいと思います。卒業・修了された方々も誇りを持って、本学の卒業生・修了生として生きて欲しいと思います。

21世紀は、確実に皆さんの時代です。最近NHKで、放送している新撰組の中の若い青年たちの大部分は、多摩の出身です。目的は違いますが、当時活躍した幕末の志士たちも皆同じような若い世代であり、それぞれに目的を持ち、志を高く掲げて生きた人たちであります。20世紀は素晴らしい世紀になりましたが、少し考えればまだ先々を想像のできる社会だったと思います。21世紀に入るとそうはいきません。ある局面から別の局面に瞬時に変わります。そういう危うさ、逆に言えば素晴らしいスピードと変化に富んだ世紀だと思えます。大学が法人化されるようなことは一昔前には想像もできませんでした。皆さんの周りには、インターネットとかメディアの存在で情報が氾濫しています。そういう中で自分を見失わないようにしていくのは、我々の時代よりも大変なことだと思います。今日卒業・修了される方は、才能は個々別々であります。若さという武器は共通していると思います。そうした武器を有効に使って、

積極的に目標を掲げ、志を持って生きて欲しいと思います。

バブルがはじけて世の中大変な状況になっていますが、わが国は、科学技術創造立国という旗を掲げて、ITあるいはバイオテクノロジーの分野で戦略会議が政府によって作られています。それだけ科学技術が国の中で重要視されている証拠です。研究開発あるいはそれを利用する職業につく方は、技術が先端的なものになればなるほど、社会あるいは一般の人たちと係り、充分に考えて進んで頂きたいと思います。

本学の同窓生おおよそ4万人が、各方面で活躍をしています。皆さんもこれから進む道はいろいろですが、それぞれの場面で能力を発揮し活躍して頂きたいと思っています。同窓会室もまもなく出来上がります。また、ホームページをもう少し充実させて同窓会の皆さんのつながりを深めていきたいと思っていますので、アクセスして頂きたいと思っています。

最後に改めて、おめでとうございますと申し上げて祝辞といたします。

平成15年度 東京農工大学卒業式・修了式



平成16年度東京農工大学入学式祝辞

同窓会副会長 澤 渡 弘 幸 (林S33)

皆さん！ 入学おめでとう。

東京農工大学同窓会を代表して、お祝いを述べさせていただきます。

長い熾烈な競争のなかを見事に頑張り通して、今日のお喜びの日を迎えられたことに心から敬意を表します。

ご臨席のご両親、ご親族の方々にお祝いを申し上げます。“這えば立て立てば歩め”の親心と申し上げますが、お子さん達が生を受けてから、今日の感激の日を迎えられるまで、言葉には表わせられないご苦労が有ったこととご推察申し上げます。皆様の優しい大きな愛情にはぐくまれ、立派に成長

され期待にこたえて、この栄冠を勝ちとったお子さん達に、今日の輝かしい門出をお祝いして心から拍手をおくってあげてください。

我が農工大学のルーツは、130年前の内務省内藤新宿派出所農事修学場・蚕病試験掛までさかのぼり、我が国大学の中でも、有数の歴史を背景にしており、農学部本館横には、大久保利通公の遺徳をたたえた記念碑が建てられており、また現在帝国ホテル正面玄関横に、千代田区教育委員会により農工大学発祥の地という高札が立てられていて、本学の歴史の古さがしのばれます。

大学評価・学位授与機構によると、本学の農学部は非常に高い評価を受けており、農場、演習林など8付属施設を統合した広域都市圏フィールドサイエンス教育センターを全国に先駆けて発足、フィールドミュージアムと名づけ実験・実習に提供しています。必ず諸君の向学心を満足させるものと信じます。

ある新聞によると、本学工学部は研究費獲得額・論文発表・特許出願数・産学連携の取り組みなどのデータによるランク付けでは全国で5位にランクされており、研究成果発進力についても全国で1位になっています。本学の技術移転機関「農工大 TLO (Technology Licensing Organization)」は初年度から黒字を出して4%の配当を実施するという全国でも唯一の驚異的な成果をあげています。

本学のレベルの高さはずば抜けており、本学を選んだ諸君の選択は、正解であることを確信持つて言うことができます。研究設備も含めて本学で学ぶことに誇りを持って下さい。

同窓会は会員総数、正会員35,000人、準会員賛助会員をいれますと、43,000人を越え、全国津々浦々にちらばって、各地で指導的な立場で活躍されています。更に世界各地で、経済や政治の最先端で活躍している多くの先輩がいます。そして諸君は今日から農工ファミリーの一員として、他の

大学にはない同窓の硬い絆で結ばれています。将来、社会に出てから人生の岐路についての相談事、仕事の悩みなど有れば公私にかかわらず、遠慮なく飛びこんでください。必ず皆さんの期待にこたえられると確信します。

まず、自己中心で利己的でなく大学での学問だけでなく、地域社会への無私の無償奉仕は、近代社会の中で市民の義務であることを学んでください。関西大震災の時は、いち早く本学の学生が、神戸に駆けつけ、ボランティア活動に活躍している有様が連日の様にマスコミに報道され、私どもも同窓会東京支部の母体になっているケヤキクラブから、学生たちに旅費の一部を支援させていただきました。法人化の命題の一つに地元貢献することが上げられています。大学の地域開放事業にも積極的に参加してください。

二つ目は、急速なグローバル化の中でIT革命による情報社会のなかでは、このような専門分野の研鑽だけでなく、必ず外国語をマスターして社会に出て行ってください。英語をベースとしたBilingualに挑戦してください。自由に駆使できる言葉を持つことは、不必要な誤解や争いごとをなくし、平和な社会を築くことが出来ます。

三つ目は、常に他の人に思いやる気配りを身につけてください。Globalizationのなかで、海外からの留学生は、今420名が在学し、その出身の国の数も38カ国に及ぶというSmall worldになっています。本年度の海外からの新入留学生も18カ国、96名が入学してきました。慣れない生活、言語、文化や生活習慣の違いなどからカルチャーショックで、恐らく不安にかられていることでしょう。温かく迎えてあげてください。戸惑っている仲間を見たら、是非皆さんから手を差し伸べてあげてください。

海外からの留学生の方々に一言ご挨拶を申し上げます。

My Fellow students :

While cherry blossom is in full bloom, it is great pleasure to have your presence on today's entrance ceremony for Tokyo University of Agriculture and Technology. We also NO-KO-DAIGAKU Alumni association welcome you for your entrance to the university as new member of our family.

I have no doubt that your choice is perfect to study at our university, and I believe you surely enjoy your stay at our lovely campus and you satisfy with excellent facility and with its staff.

While you major your own work, I advise you to see more beauty of Japan. I advise you to touch the heart and the mind of Japanese. I advise you to explore our Japanese traditional culture, custom, manner, public morality and its history.

During your study, please brush up your Japanese in order to avoid unnecessary misunderstanding and fighting. World peace can be created by your own hand.

I hope you enjoy your stay in Japan and you can complete your academic work.

I am glad to say that NO-KO-DAIGAKU may become your 2nd home town for your life.

諸君の輝かしい未来と素晴らしい青春の栄光あれと祈念して私の祝辞に代えます。

卒業式を迎えて

農学部生物生産学科4年 原 伸弘

平成16年3月25日、我が大学の学位授与式が桜満開の中府中の森芸術劇場で行われました。卒業式では、歌うのが入学式以来(?)とかなり久しぶりの校歌を斉唱した後、学位記の授与が行われ、学部、修士課程を修了した卒業生に学位記の授与が行われました。

宮田清蔵学長は告示の中で、「大学時代でえることのできた人とのつながりを大切にしておくように、また日本が食糧輸入大国で自給率の低いという問題に関連して、様々な問題を解決していけるように枠にとらわれない柔軟な考え方を持ってほしい。自信を持って言える自分だけのなにかをもてるようになってほしい。」と卒業生を激励してくださり、卒業してから新しい路を進む我々は決意を新たにすることができました。

また、来賓祝辞では同窓会会長の畑中孝晴会長から、「各方面で農工大の卒業生が活躍しており、農工大卒業生であることに誇りを持ち、目的を持ち志を高くして生きてほしい。社会・一般の人たちとのかかわりを大切に、若さという武器

をいかして活躍して行ってほしい。」とお祝いの言葉をいただきました。

私は東京農工大に入学してからのこの4年間で様々なことを学ぶことができました。色々な専門知識を学べたことももちろんですが、一人の大人としてこれから社会に出て行くにあたって必要なことや、自分が学んだことを世の中を良くしていくためにどう生かして行くかなど、学問以外のことで学べたこともたくさんあったと思います。そして何より、大学生活4年間で得ることのできた最大のものは多くの友人を作ることができたということだと思います。この4年間で、友人たちとくだらない話から進路のことこれからの人生のことのような真剣な話まですることができたのはかけがえのない思い出となると思います。この4年間の大学生活のたくさんの思い出を胸にしまつて4月からまた新しいスタートをしていきたいと思っています。

ピカピカの1年生

農学教育部生物生産科学専攻1年 半田貴彦

平成16年4月7日、雲一つない青空の下、東京農工大学入学式が行われ、1786人が入学しました。ホール中が新生生の初々しい雰囲気にも包まれるなか、管弦楽団の「大学祝典序曲」が響き渡り、入学式が始まりました。いよいよ大学生活のスタートです。

宮田清蔵学長は「自分で考え、決断し、それに向かって行動できる人になれ。また、大学生活とは自分発見の旅の期間でもあり、どのように生きるのかを考え模索し、それを見つけたならそれをめざし成し遂げるように自信と誇りをもって大学生活を送れ。」と大学生とは大学生活とはなんたるかを激励して下さいました。

また、澤渡弘幸同窓会副会長は「自己中心的・

利己的ではなく、常に周りに気を配り社会に貢献する人間になれ。また、急速なグローバル化の中、誤解を回避し世界を平和にしておくためにも、外国語をマスターしろ。」とこれからの私たちの成長すべき道を示して下さいました。

私も今日から大学院生活の始まり、ピカピカの(?)1年生です。農工大学歌を歌いながら私とその横でとまどいながら歌っている新生生に年の差を感じつつ、大きな希望と期待とちょっぴりの不安を抱いていた4年前を思いだし、また新たな気持ちで充実した大学生活を送ろうと決意しました。

自分探しの大学生活。私も4年間で大きく成長してきました。2年後にどんな私になっているか今から楽しみでなりません。

学 園 だ よ り

農工大の研究力

共生科学技術研究部長 堤 正臣

〈新しく誕生した共生科学技術研究部〉

平成16年4月1日、全国89の国立大学が一斉に法人化され、農工大学は「国立大学法人東京農工大学」になりましたが、この法人化と同時に農工大学ではもう一つ大きな変化がありました。それは、念願であった大学院の重点化が実現化され、「大学院共生科学技術研究部」が誕生したことです。農学部、工学部、それに生物システム応用科学研究科に所属していた助手以上の教員全員がこの研究部に所属することになりました。府中と小金井の両キャンパスの教員が一つの研究部に所属することになったわけです。これは、本学始まって以来の大きな変革であると思っています。

今まで、農学部と工学部に所属していた教員は、それぞれの研究科の教員を兼担(兼務)していました。4月1日からは、生物システム応用科学研究科を含む3つの部局に所属していた教員は、研究部を本務とし、教育部や学部を兼務することになりました。この部局化の詳細については、すでに普後一教授(現教育研究評議員)が農工通信第72号で紹介していますのでそちらを参照してください。

学校教育法66条には、「大学院を置く大学には、研究科を置くことを常例とする。当該大学の教育研究上の目的を達成するため有益かつ適切である場合においては、文部科学大臣の定めるところにより、研究科以外の教育研究上の基本となる組織を置くことができる。」とあります。この簡条を受けた国立学校設置法第3条の四に基づいて、本学大学院に研究科以外の教育研究上の基本となる組織として教育部と研究部とが置かれることになりました。研究部と教育部の設置は、16年度の概算要求に基づいて実現されたものです。なお、この国立学校設置法は、国立大学法人の発足と同時に廃止されました。

ところで、従来、教員の所属する「教育研究分野」は、その名のとおり教育と研究とが密接にリンクした一つの分野として位置付けられていました。それを教育部と研究部の二つに分離することにより科学技術の進展に合わせた柔軟な組織変更ができるようになりました。しかも、農工大の場合は、教員すべてが大学院共生科学技術研究部

所属になり、部局の垣根を越えた連携と協力ができる体制が整えられました。農工大の発展に大きく貢献するものと期待されています。

したがって、今まで以上に、農と工とが協調して研究に取り組み、全体としての研究力を向上させていくことが研究部に課せられた大きな課題になっています。その研究力を今以上に上げていくためには、研究部に所属する構成員の頑張りが必要であると思っています。

〈農工大が5位にランク〉

2月16日付けの日本経済新聞で工学部の研究力が全国有力大学と並んで5位であると大きく報じられたことはご存じの方も多いと思います。これは、日本経済新聞社が全国の有力108大学の工学部長・研究科長を対象にアンケートした結果に独自のデータを加味して、①研究費獲得額、②論文発表・特許出願数、③産学連携の取り組みの3つの観点から評価したものです(表1参照)。

農工大は、表1に示すように、②の教員一人当たりの主要学術誌での論文発表や特許出願件数をもとに算出された「成果発信力」が全国1位、③企業との共同研究や研究成果の技術移転などをもとに算出された「産学連携力」が5位と高い評価を得ました。①の研究費獲得額は10位までのランクには入っていないためにその順位はわかりませんが、教員一人当たりで計算するとそんなに低くはないはずです。

その記事の中で、「奈良先端大や農工大などは教官数(助手以上)が200人強と東大などのおよそ半分。研究費や論文の総数では総合大伝統校を下回る。しかし教官一人あたりではいずれも上位に入り、研究水準が高いことを示している。」と分析されています。

農工大が民間企業等との共同研究において力を発揮しており、その伸びが著しいことは数字に現れています。過去6年間の外部資金獲得額(表2参照)は、総額の欄を見ると2.3倍になっているのがわかります。その中でも際だって大きく増加しているのが民間企業等との共同研究費と受託研究費の二つです。

民間等との共同研究費は、教員個人がそれぞれ

民間企業と共同して研究を進めるもので、日本でもトップクラスの実績を誇っています。とくに、額の大きな共同研究(A)の件数は、平成14年のデータでは全国一位、また、教員一人当たりの共同研究費獲得額でも全国一位でした。共同研究の件数と相関があるかどうかは調べたわけではありませんが、一人当たりの特許出願件数が年0.58件と全国最多です。

〈数字が語る強さと弱さ〉

外部資金獲得額の伸びについてみてみますと、研究費の種類によって大きな違いがあることがわかります。平成10年度

に対する平成15年度の共同研究費は実に4倍に伸びています。突然増えたわけではなく毎年着実に伸びているのがわかります。もう一つ、受託研究費も2.75倍と大きく伸びています。公募型補助金などが上がっていることが関係しています。これは、農工大が産官学連携に力を入れてきた証であると言えます。奨学寄付金は不況が続いたこの6年間で1.59倍と着実に伸びています。

しかし、最盛期から大きく落ち込んで辛うじて平成10年のレベルに保たれたのが、科学研究費補助金です。政府予算における6年間の科学研究費補助金の伸びが1.5倍になっていることを考慮すると、平成15年度は9億円くらい獲得していてもなにも不思議ではありません。しかし、実際は平成10年の1.06倍になってしまいました。表2の下に補足として書きましたが、5月15日現在における科学研究費獲得額は、わずかに増えて1.07倍です。平成15年が特別に低かったわけではありません。このようになった要因を分析するとともにその課題を解決するための対策を立てていく必要があると思っています。

本学の中期目標・計画の中で、外部資金その他の自己収入の増加に関する目標として「科学研究費補助金について、1人最低1件以上申請することを目標とする。」ことを掲げています。申請件数を増やしても補助金を獲得できる額が増えるわけではありませんが、大学としての採択率の向上を目指して、科学研究費補助金の仕組みをよく理解し、適切に応募するなどの対策を立て、取り組んでいかなければならないと考えています。

〈一層の研究力向上を目指して〉

研究部では一層の研究力向上を目指して、中期目標・計画の実施に向けて活動を開始しました。本年度は中期目標の初年度ということで目標を達成するための具体的な取り組みを開始したところ

表1 東京農工大学の研究力
(日本経済新聞平成16年2月16日付け朝刊による)

研究力	研究企画力	成果発信力	産学連携力
① 大阪	① 奈良先端	① 東京農工	① 早稲田
② 奈良先端	② 大阪	② 東北	② 東北
③ 東北	③ 東京	③ 神戸	③ 東京
④ 東京	④ 慶應義塾	④ 慶應義塾	④ 東京工業
⑤ 東京農工	⑤ 名古屋	⑤ 東京工業	⑤ 東京農工
⑥ 早稲田	⑥ 京都	⑥ 大阪	⑥ 名古屋
⑦ 東京工業	⑦ 東京工業	⑦ 豊田工業	⑦ 名古屋工業
⑧ 慶應義塾	⑧ 早稲田	⑧ 新潟	⑧ 京都工芸繊維
⑨ 名古屋	⑨ 東北	⑨ 名古屋	⑨ 大阪
⑩ 京都	⑩ 九州	⑩ 東京 奈良先端	⑩ 徳島

です。

大学として目指すべき研究の方向性についてしっかりと議論をしながら、大学憲章又は研究ポリシーとして社会にアピールしていくための準備を始めたばかりです。今まで、研究憲章やポリシーと呼ばれるものは農工大にはありませんでした。研究ポリシーを制定し、農工大学で実施している研究の方向性を社会に広くアピールできればよいと思っております。

新しい学則の第1条には「東京農工大学は、学術の理論及び応用を教授研究し、真理と平和を希求する教養豊かな人材を育成するとともに、社会・環境と調和した科学技術の進展に寄与し、教育研究の推進を通じて人類の生存と繁栄、美しい地球の持続及び文化の進展に貢献することをその目的及び使命とする。」と書かれていますが、この目的と使命を取り込んだ研究ポリシーを策定することが本年度の課題になっています。今年度中に原案を検討し、学内で広く意見を聴取して作成する予定です。

また、大学として重点的に取り組む研究領域は、研究部を構成する8つの部門と2つ拠点に集約されていることから、それぞれの部門・拠点ごとに具体的な目標を立てることが本年度の最初の目標です。昨年度中に目標を立てて、この4月からその目標に向かって活動をするような準備をする必要があったのですが、法人化と部局化が一緒に始まったものですから、取り組みが遅れてしまっています。

そのほかに、農工大学は、研究活動面において広く社会に貢献するために研究成果を様々な形で公開していく計画です。その一つとして、ウェブサイトをとおして各教員の最近の研究論文や特許などが閲覧できるように準備を進めています。公開する中身についてはこれから詰めていきます。

表2 東京農工大学の最近6年間の外部資金獲得額と科学研究費補助金の伸び
(東京農工大学産官学連携の実績2003年版ほかによる。)

年度	外部資金の種類と獲得額・伸び										政府予算	
	総額 (千円)	伸 び	共同研究 費(千円)	伸 び	受託研究 費(千円)	伸 び	奨学寄付 金(千円)	伸 び	科学研究 費(千円)	伸 び	科学研究 費(億円)	伸 び
1998	1,402,440	1.00	160,941	1.00	325,163	1.00	323,786	1.00	592,550	1.00	1179	1.00
1999	1,645,816	1.17	166,180	1.03	502,285	1.54	316,413	0.98	660,938	1.12	1314	1.11
2000	1,765,590	1.26	249,455	1.55	409,519	1.26	418,979	1.29	651,389	1.10	1419	1.20
2001	2,023,077	1.44	302,576	1.88	409,858	1.26	353,791	1.09	728,225	1.23	1580	1.34
2002	2,678,389	1.91	495,608	3.08	455,540	1.40	351,778	1.09	809,381	1.37	1703	1.44
2003	3,251,959	2.32	644,086	4.00	893,556	2.75	514,176	1.59	626,619	1.06	1765	1.50

補足)2004年度の科学研究費補助金獲得額は5月15日現在で、704,220千円(1.07)

また、研究部の部門・拠点ごとに自己点検評価に使用できる研究評価尺度を設定し、その尺度に従って一定期間ごとに自己点検評価を行うことを予定しています。

中期目標・計画の実施と自己点検評価、外部評価をとおして絶えず改善を行い、個性輝く農工大にしていきたいと考えております。是非、皆様のご支援をいただきたいと思います。

解説

鳥インフルエンザについて

共生科学技術研究部動物生命科学部門 本 多 英 一 (獣医45)

鳥インフルエンザは鳥インフルエンザウイルスによっておこされる鶏に強い毒性を発揮し鶏を1日から数日で死亡させる病気である。それは高病原性鳥インフルエンザと呼ばれ家畜法定伝染病に指定され、発生がおきると同居の鶏は殺処分されなければならない病気である。しかしこれは鶏に対してであり人に対してではない。

2003年暮れおよび2004年2月鳥インフルエンザの発生がおこり鶏が数万羽死亡し数十万羽殺処分された。これは日本での79年ぶりの鳥インフルエンザの発生で、養鶏業界を震撼させた。

インフルエンザウイルスは人、豚、馬、鯨、アザラシなどのほ乳類から鶏、鴨、野鳥などの鳥類まで多くの動物から分離されている。ウイルスの表面にあるエンベロープと呼ばれる物質中の、ウイルスが細胞に吸着する時に働く赤血球凝集素(ヘモグルチニン:HA)とウイルスが細胞から離れる時に働くノイラミニダーゼ(NA)の抗原の型の組み合わせによってウイルスは亜型に分類されている。人に病気をおこすインフルエンザウイルスの型は今までにH1,H2,H3が知られており、豚からはH1とH2が分離されており、馬からはH3とH7が分離されている。鳥からはH1からH15と多くの型のウイルスが分離されている。特に鶏からはH4,5,7,9,10の5つの型の分離が知られておりその中でH5,H7およびH10のウイルスが鶏に

強い毒性を発揮している。NA(N)の型はN1からN9亜型が知られている。

インフルエンザウイルスの遺伝学的な特徴は遺伝子RNAが8つの分節に分かれていることである。このことは後に述べるウイルスの変異に大いに関わっている。

〈人でのインフルエンザの発生とウイルスの変異〉

人でのインフルエンザの発生は古くは1918年にスペイン風邪と言われ血清型はH1(N1)のインフルエンザウイルスによる大発生があり世界中で2000万から4000万人もの死者が出たという。次の大発生は約40年経過した1957年H2(N2)型のアジア型の発生であり、3回目の発生は1968年の香港型H3(N2)であった。その後は1977年のロシア型のインフルエンザの発生はあったがこの型はH1(N1)で全く新しい型と言うわけではなかった。現在まで毎年インフルエンザの発生はあるが幸いにして新型のインフルエンザウイルスによる大発生はおきていない。新しい血清型のインフルエンザウイルスの出現による発生がおきると我々人間はその血清型の抗体を持っていないので重篤な感染となる。

インフルエンザウイルスは2種の変異つまり不連続変異と連続変異がおこることが知られている。不連続変異とは10年ごとあるいは数10年後に人間が経験したことのない新しい血清型のインフルエ

ンザウイルスの出現する変異のことである。これは鳥が持っているインフルエンザウイルスと人のインフルエンザウイルスが豚に同時に感染した時それぞれのウイルスの8本のRNAの分節が組み換えをおこし新しい型のウイルスが形成されることによる。もし新しい型のウイルスが出現し再び人間に感染すると長い期間を経て徐々に新型のウイルスが量的に優位となりある時人に大発生をおこすようになると考えられる。もう一つの変異である連続変異とは遺伝子のRNAの塩基の一つに変換または欠損などの変異によってHAを構成しているアミノ酸に変異が生ずることである。たとえばHAのアミノ酸一個の違いであっても前年インフルエンザウイルスに感染し体内に出来ているHAの抗体とは反応が悪くなり防御効果が落ちる。**〈鳥インフルエンザ発生での心配〉**

高病原性鳥インフルエンザウイルスによる鶏での大発生がおこったため、そのウイルスが我々人にも感染するのではないかと危惧された。それは第一として上に述べたように鳥インフルエンザウイルスH5(N1)の型が豚の細胞内で人由来のインフルエンザウイルスと組み換え(不連続変異)がおこるのではないかとこの心配である。この心配については現在の日本においては豚と鶏がほぼ同居していて人由来のインフルエンザウイルスが同時感染し新しい血清型のウイルスが出現する状況は考えにくい。また、たとえ新型のウイルスが出現したとしてもそれが優位になり人に発生するまでにはかなりの年月の経過が必要である。よって現

時点でH5のインフルエンザウイルスによる発生がおこるとは考えにくい。第二の心配はH5の鳥由来インフルエンザウイルスが鶏から直接人に感染するのではないかとということである。これについてはヒト型とトリ型のインフルエンザウイルスが細胞に吸着するときに必要な細胞表面のレセプターが異なるため一般にはトリ由来インフルエンザウイルスH5は人には感染しない。よって心配はいらない。ただしごく少数の人はそのレセプターを持っていると考えられている。このレセプターを持っている人が香港、ベトナム、タイで感染した人たちであろう。H5による呼吸器疾患の感染は香港では計20人、ベトナム、タイで計33人でその後はさらなる大発生がおこっていない。このことは人から人への感染はおこっていないことを示している。オランダでは84人の感染者がでたがこの血清型はH7で症状は結膜炎で香港およびベトナムの場合とは異なるようだ。以上のように今回鶏に発生があった鳥インフルエンザウイルスの人への感染については過度の心配は必要ないと考えてよい。

〈まとめ〉

鳥インフルエンザは鶏の病気で人の病気ではないということ、市販されている卵、肉は感染した鶏のものはない。またこのウイルスは卵、肉では増殖しない。さらに病原体がウイルスなので家庭での通常の調理(70℃から100℃)で100%失活する。以上から過度の心配の必要はないと考えてよい。

解説

塩に強い植物をつくる —マングローブ遺伝子の有効利用—

共生科学技術研究部生命機能科学部門 山田 晃 世 (高工H4)

世界人口が増加の一途を辿っています。紀元元年、世界人口は3億人でした。それが1000年を経て倍になり、2000年で60億人、2050年には100億人に至ると推定されています。

一方、植物が生育できるスペースは年々減少しつつあります。例えば、1984年に7.6億ヘクタールあった穀物の耕地面積は、1994年には6.9億ヘクタールまで減少しています。これらのことから、2010年には深刻な食糧不足が生じると懸念されています。既にサハラ砂漠以南では餓死する人が増え始めています。可耕地の減少の主な原因は塩類の集積です。「塩」は高等植物の生育を著しく抑制します。さらに、砂漠化の主な原因も「塩」です。国連環境計画のまとめによると、砂漠は毎年6万

平方キロメートルのスピードで広がっていると試算されています。これは四国と九州を合わせた面積に匹敵します。緑地の減少は、炭酸ガス吸収源の減少を意味し、炭酸ガス濃度の上昇は地球温暖化をもたらします。温暖化による海面の上昇は、さらなる可耕地の減少を引き起こします。これらのことから、今、高等植物に耐塩性を付与する技術の確立が切望されています。

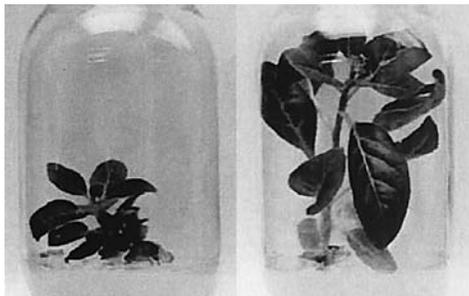
ここでは私たちが進めている研究を通して、遺伝子組み換え耐塩性植物の開発にかかわる現状とその可能性を解説します。

植物のストレス耐性を強化する：高等植物のストレス耐性を強化する手法としては、交雑育種(掛け合わせにより遺伝的変異を拡大し、そのなか

らねらいの形質を有するものを選抜し、遺伝的に固定する方法)あるいは、突然変異による育種が進められ、現在までに様々なストレスに強い優れた品種が作出されてきています。例えば、イネは本来、熱帯原産の植物ですが、一部の品種は日本の寒冷地でも生育可能になっています。しかしながら、このような方法は、目的の性質の植物を得るために多大な労力と時間が必要であり、飛躍的なストレス耐性の向上は見込めません。このような古典的手法に対し、分子生物学的手法を用いてストレス耐性植物を作出する方法があります。この方法の利点は、利用できる遺伝子が同種の植物由来のものに制限されるものではなく、ありとあらゆる生物を由来とした遺伝子を利用でき、多彩な形質を獲得した植物体を作り出すことが可能になると期待できます。分子生物学的手法を用いて耐塩性植物を作出する上で最も重要なポイントは、対象植物に対し「どのような遺伝子を導入すべきか」です。そこで、私たちはマングローブ植物のもつ強力な耐塩性に着目しました。

マングローブ植物とは：マングローブ植物は、熱帯、亜熱帯の海岸や汽水域に生息する樹木の総称です。高山植物という名前の植物がないのと同じで、マングローブという植物名は存在しません。一般的な高等植物と異なり、マングローブ植物は海水(NaCl濃度は約500 mM)が存在する過酷な自然環境で生育できることから、それぞれの進化の過程で一般的な高等植物とは異なる多彩な耐塩性機構を獲得し、現在に至ったものと考えられます。つまり、マングローブ植物は陸上の高等植物の耐塩性を向上させるための重要な遺伝子資源であると言えます。しかしながらマングローブが何故塩に強いのか?を遺伝子レベルで解析した例はこれまでありません。そこで、私たちは全く新しい探索方法でマングローブ植物のもつ特殊な耐塩性遺伝子の探索を試みました。

マングローブ植物が持つ耐塩性遺伝子の探索：



マングリン遺伝子を導入したタバコ(右)と組み込んでいないタバコ(左)

私たちはマングローブ林の主要構成種である「オヒルギ」というマングローブに着目しました。一般にストレス耐性遺伝子の単離を試みる場合、ストレスにตอบสนองして発現する遺伝子を狙うのが一般的です。しかしながら、オヒルギは常に塩分を含む環境で生育する植物であるため、この方法はオヒルギのもつ耐塩性遺伝子の探索方法としては、必ずしも適した方法ではないと思われました。そこで、私たちは、オヒルギのもつ遺伝子のうち、約50万個をそれぞれ大腸菌に導入し、得られた形質転換大腸菌の中から、明らかに耐塩性の向上した約30クローンを選抜しました。この30クローンに導入された遺伝子の全塩基配列を解析した結果、8割が同一遺伝子であることが判明しました。類似遺伝子が存在しないことから、私たちはこの遺伝子がコードするタンパク質を「マングリン」と命名しました。

新奇耐塩性強化因子「マングリン」：マングリンは、256アミノ酸からなるタンパク質で、その機能領域は16から86番目までのわずか70アミノ酸がつながった領域のみでも大腸菌の耐塩性向上させる機能を有することが、確認されました。マングリンを発現した大腸菌は、NaClに対する耐性の他、42度の高温でも死なずに生育するなど、極めてユニークな性質を持つことが明らかになりました。また、他のヒルギ科マングローブにもマングリンの機能領域と類似したタンパク質をコードする遺伝子の存在が確認されたことから、マングリンはヒルギ科マングローブが「海水中で生き残るための進化」のために獲得した重要なタンパク質の1つであると考えられました。

マングリンは大腸菌ばかりでなく、高等植物の耐塩性を強化する機能を有することも確認されました。写真は150 mM NaCl存在下でのタバコの生育を示しています。

今後の展望：現在、海水の3分の1程度の塩分に耐えられる組み換え植物の作出に成功しましたが、海水に耐える組み換え植物は世界的にみても未だ得られていません。今後さらなる耐塩性の向上を目指すには複数の耐塩性遺伝子の組み合わせが必要だと考えられます。耐塩性遺伝子組み換え植物の実用化の例はこれまでになく、今は基礎研究の段階と言えます。今後、これらの組み換え植物を実用化するためには、安全性の問題や環境への影響など多くの問題を考える必要があります。

東京農工大学同窓会第41回通常総会開催さる

日 時：平成16年5月29日(土)13：30～15：00
 場 所：東京農工大学農学部連合農学研究科棟会議室
 出席者：理事及び代議員 計193名(うち委任状77名)

第41回通常総会は、5月29日母校農学部キャンパスで開催された。まず、小原理事長から、出席者が定足数を超え、会議が成立した旨報告のあと、小原理事長の開会の辞によって通常総会に入った。

会議に先立ち、畑中会長から、「50周年記念ホールに隣接して、同窓会が寄附し建築した同窓会室も春にできました。後援会も25周年記念行事もあります。同窓会の皆様にお世話になっています。農工大は2学部と他の大学と比べて小さいものの、色々な意味で大変に活発な国立大学であり、春から法人化ということで、ますます発展をしてもらえるのではないかと、同窓会としても支援をしていきたいと思っています」という挨拶があった。続いて、来賓の神田副学長から配布された別資料に基づいて「大学の近況と展望」の話があり、これまでの多大な支援に対する謝意と今後の倍旧の協力の要請があった。続いて笹尾農学教育部長から、農学教育部および連合農学研究科状況、阪上後援会会長から、後援会の25年の活動経緯及び同窓会の係わりについての説明と謝辞があった。引き続き、畑中会長を議長に選出し、故久保田元会長に黙祷をささげた。次に議事録署名人2名(生原喜久雄、亀山秀雄両理事)を専任し、議事に入った。

議長から、総会の議案は理事会で承認されたものとなっているが、時間的制約もあるので今回は常務理事会の決定のみで総会に提出することとした旨の提案があり了承された。

議事

1. 平成15年度事業報告、決算報告及び監査報告

高橋総務部長より、資料に基づき平成15年度の事業11項目について、項目別に報告が行われ、また淵野経理部長より、平成15年度決算報告〔別記1〕が行われた。さらに佐々木監事から、同年度の会計監査及び業務監査について、報告書・帳簿・伝票等の精査を実



施した結果何れも適正に処理されており、また事業・業務報告の妥当性について監査の結果適正であると認められる旨報告された。以上平成15年度事業報告、決算報告、監査報告について何れも異議なく了承された。

2. 平成16年度事業計画、予算案提案

高橋総務部長より平成16年度事業計画案〔別記2〕に関し母校に対する援助(学生支援)の増進を含む9項目の提案があり、また淵野経理部長から平成16年度予算案〔別記3〕について提案説明が行われ何れも提案通り承認された。

3. 名誉会長、顧問の推挙

小原理事長により、西尾邑次前会長(農S17)を名誉会長に、林田彪衆議院議員(林S42)および東野文男元理事長(機械S38)を顧問に推挙したい旨の提案があり、承認された。

4. 理事及び代議員の選任、理事長及び常務理事の指名、監事の選出

小原理事長より、理事会推薦理事(14名)、部会推薦理事(84名)、監事(3名)、部会推薦代議員(81名)および支部推薦代議員(85名)の候補者案が提案され、何れも原案通り承認された。

会則に従って松岡新理事長および常務理事の指名があり、新旧理事長の退任・新任の挨拶があった。

総会終了後、畑中会長より、同窓会室の建築に貢献した白方建設およびF Sセンターに感謝状が贈呈された。

最後に山本理事(副学長)より配布された資料「東京農工大学の組織」を基に大学の組織の説明があった。

その後、50周年記念ホールにおいて、懇親会が開催され、新築された同窓会室が披露された。



【別記 1】平成15年度決算報告

(平成15年 4 月 1 日～16年 3 月31日)

1. 基本金決算

(1) 収入

(単位：円)

款 項 目	(A) 予 算 額	(B) 決 算 額	(A)-(B) 増 減	備 考
前年度繰越金	334,133,520	334,133,520	0	
終身会費	2,000,000	2,420,000	-420,000	延80名(分納を含む)
賛助会費	20,979,000	22,440,000	-1,461,000	延748名
合 計	357,112,520	358,993,520	-1,881,000	

(2) 支出

(単位：円)

特別会計繰出	(A) 40,000,000	(B) 37,000,000	(A)-(B) 3,000,000	増築寄附3千万円会員名簿発行
一般会計繰出	9,797,000 6,000,000	9,797,000 6,000,000	0 0	終身/賛助会費の10%+750万円基本金より特別繰出6,000千円
合 計	55,797,000	52,797,000	3,000,000	

(3) 残高

(単位：円)

収入-支出	301,315,520	306,196,520	-4,881,000	
-------	-------------	-------------	------------	--

2. 一般会計決算

(1) 収入

(単位：円)

款 項 目	(A) 予 算 額	(B) 決 算 額	(A)-(B) 増 減	備 考
前年度繰越金	1,218,421	1,218,421	0	
入 会 金	4,189,000	4,490,000	-301,000	898名
年 会 費	2,430,000	1,946,500	483,500	延1,297名
10年前納会費	800,000	975,000	-175,000	65名
利 子	400,000	128,669	271,331	
基本金より繰入	15,797,000	15,797,000	0	
そ の 他	50,000	0	50,000	
合 計	24,884,421	24,555,590	328,831	

(2) 支出

(単位：円)

款 項 目	(A) 予 算 額	(B) 決 算 額	(A)-(B) 増 減	備 考
事 業 費	12,195,000	11,550,552	644,448	
内				
会員名簿発行準備費	1,300,000	1,307,021	-7,021	
会員名簿作成費	0	0	0	
会 報 発 行 費	8,180,000	8,238,111	-58,111	7月, 12月
新入正会員歓迎費	810,000	803,880	6,120	卒業, 修了証書入れ
母校行事援助費	380,000	380,000	0	学園祭, スポーツ大会
分収林管理費	310,000	30,000	280,000	
資 料 整 備 費	300,000	0	300,000	
活 動 費	915,000	791,540	123,460	
会 議 費	385,000	385,225	-225	通常総会, 懇親会
事 務 費	9,549,750	8,935,308	614,442	
内				
手 当	2,196,750	2,025,000	171,750	
雑 給	2,800,000	2,561,269	238,731	
備 品 費	319,000	0	319,000	
消 耗 品 費	910,000	697,580	212,420	
通 信 費	550,000	630,893	-80,893	合格者, 父母, 連絡

旅 費	2,100,000	2,240,460	-140,460	総会代議員, 支部総会
事務用品印刷費	130,000	247,575	-117,575	
慶 弔 費	34,000	96,890	-62,890	
借室・光熱水費	370,000	326,364	43,636	同窓会室
雑 費	140,000	109,277	30,723	
支部・部会還元金	940,000	840,150	99,850	
職員厚生積立金	300,000	300,000	0	
そ の 他	30,000	33,000	-3,000	
予 備 費	1,484,671	0	1,484,671	
支 出 合 計	24,884,421	22,044,235	2,840,186	
次 期 繰 越 額	0	2,511,355	-2,511,355	

3. 特別会計決算

(1) 収入

(単位：円)

款 項 目	(A) 会員名簿発行資金	(B) 職員厚生資金	(C) 同窓会室建設資金	(A)+(B)+(C) 合 計
前年度繰越金	8,636,958	993,926	0	9,630,884
繰 入 金	7,000,000	550,000	30,000,000	37,550,000
利 息	2,162	45	0	2,207
合 計	15,639,120	1,543,971	30,000,000	47,183,091

(2) 支出

(単位：円)

款 項 目	(A) 会員名簿発行資金	(B) 職員厚生資金	(C) 同窓会室建設資金	(A)+(B)+(C) 合 計
支出合計	366,260	935,630	30,000,000	31,301,890

(3) 特別会計残高

(単位：円)

款 項 目	(A) 会員名簿発行資金	(B) 職員厚生資金	(C) 同窓会室建設資金	(A)+(B)+(C) 合 計
収入-支出	15,272,860	608,341	0	15,881,201

【別記 2】平成16年度事業計画

1 第41回通常総会・理事会の開催

平成16年 5 月29日, 本校府中キャンパスにて第41回通常総会・理事会を開催する。議事内容は, 1) 平成15年度事業報告, 決算報告, 2) 平成16年度事業計画案, 予算案, 3) 平成16, 17年度理事, 代議員, 監事の選任, 4) 名誉会長, 顧問の推挙, 5) 特別会員の承認, 6) その他を予定する。

2 同窓会組織強化, 活性化および同窓会財務体質等健全化

常務理事会の部制の徹底により業務執行の効率を進め, 部会・支部・職域組織活動の活性化を図るために理事の積極的派遣を行い, 部会還元金のあり方を検討する。収入増を図るために賛助会費増の推進や会費未納者への督促, 終身会費への切り替えを推進する。また, ペイオフ完全実施が見込まれるため, 預金の適切な対処に務める。

3 農工通信73号, 74号の発行

農工通信のあり方, 編集方針, 編集実務の見直しを行い, 定期発行に務める。

4 次期会員名簿発行準備

平成17年度の発行に向け, 担当者の整備, 名簿の整理, 発注業者の選定等準備に務める。

5 同窓会活動とその PR 活動の充実

同窓会紹介パンフレットを作成し, ホームページの充実を図る。

6 会員動静整理の継続実施

農工通信の未着信者について、追跡調査を行って会員の動静の把握に務める。

7 財団法人東京農工大学後援会への協力

後援会の事務に対する実質的支援を従来通り継続して行う。

8 母校に対する援助、新入正会員歓迎行事援助の継続実施

学生の勉学および学生生活に関して新たに学会発表補助、コンテスト・コンクール等発表補助・入賞祝い、優秀卒論副賞、課外活動補助、同窓会推薦キャリア・アドバイザー支援等を実施する。卒業・修了証書カバーの進呈は継続して行う。

9 会員の慶弔

祝電、弔電を打電する。

【別記3】平成16年度予算

(平成16年4月1日～17年3月31日)

1. 基本金予算

(1) 収入 (単位：円)

款 項 目	(A) 16年度予算額	(B) 15年度予算額	(A)-(B) 増 減	備 考
前年度繰越金	306,196,520	334,133,520	-27,937,000	
終身会費	2,300,000	2,000,000	300,000	延70余名(分納を含む)相当分
賛助会費	21,000,000	20,979,000	21,000	延700名相当分
合 計	329,496,520	357,112,520	-27,616,000	

(2) 支出 (単位：円)

特別会計繰出	(A) 10,000,000	(B) 40,000,000	(A)-(B) -30,000,000	備 考
一般会計通常繰出	9,830,000	9,797,000	33,000	終身/賛助会費の10%+7500円
特別繰出	6,008,645	6,000,000	8,645	基本金より特別繰出(収入不足分)
合 計	25,838,645	55,797,000	-29,958,355	

(3) 残高 (単位：円)

収入-支出	303,657,875	301,315,520	2,342,355
-------	-------------	-------------	-----------

2. 一般会計予算

(1) 収入 (単位：円)

款 項 目	(A) 16年度予算額	(B) 15年度予算額	(A)-(B) 増 減	備 考
前年度繰越金	2,511,355	1,218,421	1,292,934	
入会金	4,200,000	4,189,000	11,000	840名
年会費	2,000,000	2,430,000	-430,000	延1,300余名相当分
10年前納会費	870,000	800,000	70,000	58名
利子	100,000	400,000	-300,000	
基本金より繰入	15,838,645	15,797,000	41,645	
その他	0	50,000	-50,000	
合 計	25,520,000	24,884,421	635,579	

(2) 支出

(単位：円)

款 項 目	(A) 16年度予算額	(B) 15年度予算額	(A)-(B) 増 減	備 考
事業費	13,260,000	12,195,000	1,065,000	
内				
会員名簿発行準備費	1,350,000	1,300,000	50,000	名簿データメンテ
会員名簿作成費	0	0	0	
会報発行費	8,250,000	8,180,000	70,000	7月, 12月
新入正会員歓迎費	810,000	810,000	0	卒業, 修了証書カバー
母校行事援助費	1,700,000	380,000	1,320,000	学会発表, 課外活動
分収林管理費	0	310,000	-310,000	
資料整備費	300,000	300,000	0	パンフレット作成等
活動費	850,000	915,000	-65,000	
会議費	390,000	385,000	5,000	通商総会, 懇親会他
事務費	9,600,000	9,549,750	50,250	
内				
手当	2,200,000	2,196,750	3,250	
雑給	2,800,000	2,800,000	0	
備品費	250,000	319,000	-69,000	パソコン購入等
消耗品費	800,000	910,000	-110,000	
通信費	650,000	550,000	100,000	合格者父母連絡
旅費	2,250,000	2,100,000	150,000	総会代議員, 支部総会
事務用品印刷費	250,000	130,000	120,000	封筒印刷
慶弔費	60,000	34,000	26,000	
借室・光熱水費	200,000	370,000	-170,000	同窓会室
雑費	140,000	140,000	0	
支部・部会還元金	940,000	940,000	0	
職員厚生積立金	100,000	300,000	-200,000	
その他	30,000	30,000	0	
予備費	1,200,000	1,484,671	-284,671	
支出合計	25,520,000	24,884,421	635,579	
次期繰越額	0	0	0	

3. 特別会計予算

(1) 収入 (単位：円)

款 項 目	(A) 会員名簿発行資金	(B) 職員厚生資金	(C) 同窓会室建設資金	(A)+(B)+(C) 合 計
前年度繰越金	15,272,860	608,341	0	15,881,201
繰入金	7,000,000	100,000	3,000,000	10,100,000
利息	2,000	40	0*	2,040
合 計	22,274,860	708,381	3,000,000	25,983,241

*総会了承後直ちに執行の予定のため、利息は計上せず。

(2) 支出 (単位：円)

款 項 目	(A) 会員名簿発行資金	(B) 職員厚生資金	(C) 同窓会室建設資金	(A)+(B)+(C) 合 計
支出合計	400,000	0	3,000,000	3,400,000

(3) 特別会計残高 (単位：円)

款 項 目	(A) 会員名簿発行資金	(B) 職員厚生資金	(C) 同窓会室建設資金	(A)+(B)+(C) 合 計
収入-支出=(1)-(2)	21,874,860	708,381	0	22,583,241

部会・支部・クラス会だより

支部・部会

項目	製糸部会女子部	徳島	長野	秋田	兵庫	香川
日時	10月21~23日	10月25日	10月26日	11月8日	11月9日	11月24日
開催場所	幸の瑚荘	とと喝		協働大町ビル	利宮館	ホテルニューフロンティア
支部・クラス	女子部総会	支部総会	支部総会	支部総会	支部総会	支部総会
理事派遣	なし	なし	なし	小原教授	久保教授	なし
参加者数	9名	5名	62名	18名	14名	11名
総会議事	事業報告	収支報告	役員再選			支部長改選
講演、討論等	奥日光、中禅寺湖めぐり	情報交換 懇親	講演会 懇親	「男の中の雄と 女の中の雌」	大学の近況 情報交換	懇親



①



②



③



④



⑤

- ① 製糸部会女子部
- ② 徳島県支部
- ③ 秋田県支部
- ④ 兵庫県支部
- ⑤ 香川県支部

支部・部会

項目	岩手	富山	静岡	愛知	埼玉林学科
日時	平成16年1月25日	2月28日	2月28日	3月13日	5月15日
開催場所	ホテルメトロポリタン盛岡	五万石本店	クーポール会館	大森	甘太郎
支部・クラス	支部総会	支部総会	支部総会	支部総会	埼玉県林学関係同窓会
理事派遣	亀山教授	なし	淵野助教授	澤田教授	なし
参加者数	22名	18名	49名	25名	16名
総会議事	活動報告 役員改選	会計報告 支部長改選	活動報告, 収支決算及び活動計画	収支決算 役員改選	
講演, 討論等	「農工大発ベンチャーの現状と将来」		「富士サファリの動物たち」懇親会	「ニューヨーク高層ビルの崩壊」	情報交換



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩

- ⑥ 岩手県支部
- ⑦ 富山県支部
- ⑧ 静岡県支部
- ⑨ 愛知県支部
- ⑩ 埼玉林学科

クラス会

項目	38F クラス会	繊維工業科	武蔵野38人会	蚕業実科	林学科	一苦会	大和田研究室
日時	6月5日	10月3, 4日	10月9, 10日	10月22~24日	10月23, 24日	10月28日	11月3日
開催場所	小樽市 宏楽園	飛騨 下呂温泉	飯田市 シルクホテル	松島, 日光	群馬 梨木温泉	生駒市 たき万	池袋 ロサ会館
支部・クラス	S38 林学科卒	S38 繊維工学科卒	S26 製糸学科卒	S23 蚕業実科卒	S28 林学科卒	S19 繊維工学科卒	S29~58 繊維化学科卒
参加者数	19名	21名	25名	8名 (夫婦同伴)	11名	12名	86名
実施事項	情報交換	情報交換 下呂観光	ゴルフコンペ 親睦	情報交換 親睦	フィールド ミュージアム 大谷山訪問, 草木湖周辺見学	親睦	大和田研 50周年祝賀会 祝賀記念誌発行



- Ⓐ 38F クラス会
- Ⓑ 繊維工業科
- Ⓒ 武蔵野38人会
- Ⓓ 蚕業実科
- Ⓔ 林学科
- Ⓕ 一苦会
- Ⓖ 大和田研究室

クラス会

項目	製糸学科	蚕糸別科	多摩留会	静岡寮歌祭	農学甲	かいこ会	製糸学科
日時	11月5日	11月10, 11日	11月11, 12日	11月29日	平成16年4月7日	5月17, 18日	5月23日
開催場所	箱根 ホテル南風荘	茨城 シーサイド はまざく	岡山 鷺羽ハイランド ホテル	静岡駅前 ブケ東海	KKR竹橋会館	伊豆高原 花吹雪	飯坂温泉 ホテル聚楽
支部・クラス	S30 製糸学科卒	S29 蚕糸別科卒	S31 獣医学科卒	S23, 36 繊維化学科卒	S22 農学甲卒	S19 養蚕・栽桑・製糸卒	S32 製糸学科卒
参加者数	13名	9名	13名	4名	14名	17名	14名
実施事項	親睦 成川美術館 見学	情報交換	親睦 吉備路観光	寮歌祭参加	府中駒場で出 会って60年の 集い、皇后東 御苑散策	親睦	親睦、裏磐梯 会津若松観光

H



I



J



K



L



M



N



- Ⓜ 製糸学科
- ① 蚕糸別科
- ② 多摩留会
- Ⓚ 静岡寮歌祭
- ④ 農学甲
- Ⓜ かいこ会
- Ⓝ 製糸学科

“東京集会”開催ご案内

東京支部 支部長 細溪 美古
けやきクラブ会長 澤渡 弘幸

同窓会東京支部及びけやきクラブでは、都内並びに首都圏の同窓会員の参加による“東京集会”を下記のように計画しています。今回はシンポジウムの形とし、学長の基調講演ではこの4月から始まった法人化の現状についてお話をいただき、パネラーには今後の展開等についてディスカッションをお願いすると共に、皆様の活発なご意見をいただきたいと考えております。

記：『東京集会』概要

- (1) 開催日時：2004年(平成16年)10月2日(土曜日)午後1：00～5：00
 - ①午後1：00～3：00 シンポジウム ー農工大の独立法人化と今後の展開ー
宮田清蔵学長基調講演及びパネルディスカッション(農工大学講堂)
 - ②午後3：30～5：00 懇親会(50周年記念ホール)
- (2) 開催場所：東京農工大学府中キャンパス
東京都府中市幸町3-5-8, 〒183-0002
- (3) 会費
A：①のみ参加又は協力金(一口)として：2000円
B：①+②及び②のみ参加 : 5000円
C：学生(特別会費：A, B共に) : 1000円
- (4) 払込先(上記A, B, Cの金額を、郵便局備付け用紙にて振替口座に払込み願います。)
口座番号：00160-2-142823 加入者名：農工大同窓 東京
(Eメールアドレスをお持ちの方は、記事欄にご記入下さるようお願いいたします。)

以上

連絡先：東京農工大学同窓会東京支部

事務所：東京都墨田区東駒形2-18-12 サイビ国際総合学院内

支部長：細溪 美古(S25林学科卒)

TEL：03-3829-3766, FAX：03-3829-3769

E-mail: saibi@cs.puon.net

「農工大全 OB 碁会のお知らせ」

毎年全国よりOBが集合、更に現職の教職員囲碁部の学生が参加して、親睦の輪が広がって来ました。蚕糸、繊維、農林、農工大全OBの碁会です。棋力の強弱は問いませんので奮って御参加下さい。

1. 期日 平成16年11月28日(日)午前9：30集合
2. 会場 日本棋院(市ヶ谷)3F
3. 会費 3,000円
4. 連絡先 須田浩行(農化S34卒)
TEL 03-3469-6891(勤務先)
TEL 0424-88-7833(自宅)

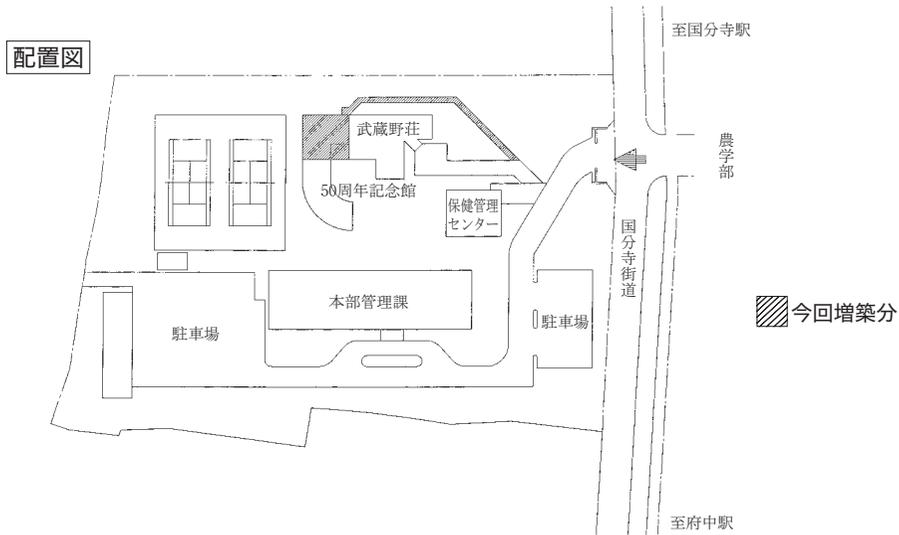
仲谷虎之助(農化S25)記

掲 示 板

新同窓会室、会議室の紹介

昨年暮れより着工の、50周年記念ホールと武蔵野荘に隣接しての事務室・会議室・化粧室など(116㎡)の増築工事が竣工しました。本学演習林の協力によりヒノキ、シオジ材を用いて、木の香りのする、明るい部屋になりました。現在、業務

は、新事務室で、また同窓会・後援会の常務理事会などの主要な会議は、新会議室で行っています。5月29日(土)の第41回通常総会後の懇親会で、出席の皆様に見学頂きました。



後援会創立25周年記念行事の実施

平成16年6月5日(土)に25周年記念行事が行われた。

記念行事の一環として、昨年より編集・製作準備を進めてきた25年史資料が完成し、記念式典出席者に配布した。

西川衆議院議員、杉野文部科学省専門教育課長、宮田学長、畑中同窓会長をはじめ70名の出席を頂いて、連合農学研究管理棟4階会議室において、25周年記念式典が、引き続いて50周年記念ホールにおいて、記念祝賀会が行われた。



今春本学を定年退官された教官

倉本 器征	教授	農学部
森川 和子	教授	農学部
池田 恭一	教授	工学部
市原 祥次	教授	工学部
伊東 正安	教授	工学部
江村 恒夫	教授	工学部
齋藤 忠	教授	工学部
澤田 孚夫	教授	工学部
長谷川 正	教授	工学部
東 福次	教授	工学部
藤林 宏一	教授	工学部
堀江 一之	教授	工学部
森本 孝	教授	工学部
高木 隆司	教授	大学院工学研究科
諸星 紀幸	教授	大学院生物システム応用科学研究科
鈴木 慶二	教授	保健管理センター
水谷 弘	助教授	工学部

慶 弔

慶 事 お祝い申し上げます

平成15年秋の叙勲

中山 富男(農S23) 瑞宝雙光章

平成16年春の叙勲

新宮 璋一(養蚕S12) 瑞宝雙光章

森谷 修(養蚕S28) 瑞宝小綬章

畑中 孝晴(農S31同窓会会長) 瑞宝中綬章

弔 事 ご冥福をお祈りいたします

久保田富一郎(林S16) 元同窓会会長

向山 文雄 (養蚕S19)元同窓会理事長

櫻井 誠 (農S24) 元農学・生物生産学部会長

平林 潔 名誉教授

桐生 啓治 (獣医S34)名誉教授

事務局だより

▼同窓会事務局、住所変更のお知らせ

同窓会事務局は、所在地が変更しました。

新住所、

〒183-8538 東京都府中市晴見町3-8-1

電話番号、FAX 番号、e-mail アドレスは変更ありません。

▼同窓会名簿について

東京農工大学の同窓会名簿は4年毎に発行しており、今回は平成17年発行の予定です。

東京農工大学同窓会とは別に、出版社から、同窓会名簿の発行をするため、同窓生に住所、職業などの調査依頼がされることがあります。東京農工大学の同窓会発行の名簿とは一切関係ありませんので、ご留意下さるようお願い申し上げます。

▼お願い

国内外、分野を問わず、ご活躍をされているお知り合いの同窓の方がおられましたら、簡単な内容(ご氏名、卒業学科、活躍されている分野など)で結構ですので、ご紹介の連絡をして頂きたいお願い申し上げます。

▼お知らせ

本73号には、同窓会支部長及び支部連絡先は掲載しておりませんので、同窓会ホームページを参照して頂きますようお願い申し上げます。

編集後記

農工通信第73号をお送り致しました。農工大は国立大学法人に本年4月より移行し、本号でも、宮田学長から同窓生の皆様へのご挨拶がございました。農工通信も徐々に形を変えてきております。

本年から同窓生の方々から寄稿文を募集することになりました。全ての寄稿文を掲載することはできませんが、同窓会事務局へ皆様の文章をお寄せ下さい。よろしくお願い致します。なお、次号より編集理事は交代致します。2年間お世話になりました。(横山 正、竹山春子 記)

例年7月1日に発行しておりましたが、今号は8月1日発行とさせて頂きました。発行が1ヶ月遅れましたことをお詫びします。(桑原利彦 記)

農工通信 第73号

平成16年(2004年)8月1日

発行所 東京農工大学同窓会

連絡先 〒183-8538東京都府中市晴見町3-8-1

東京農工大学同窓会事務局

〈TEL 042(364)3328〉

〈FAX 042(335)3500〉

e-mail:dosokai@cc.tuat.ac.jp

http://www.tuat.ac.jp/~dousou/

振替口座 00120-9-93147番(加入者負担)

加入者名 東京農工大学同窓会